

当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	無期限
運用方針	ビジネスを通じて社会的課題に積極的に取り組み、社会に貢献する企業の株式に投資します。個別企業調査を基本としたボトムアップ・アプローチを重視した銘柄選択を行います。
主要投資対象	国内の上場株式を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資割合には、制限を設けません。外貨建資産への投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。
分配方針	毎決算時(9月20日。休業日の場合は翌営業日)に、利子、配当収入および売買益などのうちから、基準価額水準等を勘案して、分配を行う方針です。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないこともあります。

朝日ライフ SRI 社会貢献ファンド 愛称〔あすのはね〕

第18期

(決算日 2018年9月20日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、ご投資いただいております「朝日ライフ SRI 社会貢献ファンド」は、2018年9月20日に第18期の決算を行いました。ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも、一層のお引立てを賜りますようお願い申し上げます。

朝日ライフ アセットマネジメント株式会社

東京都杉並区和泉一丁目22番19号

<お問い合わせ先>

ホームページ：http://www.alamco.co.jp/

フリーダイヤル：0120-283-104

〔受付時間〕 営業日の午前9時～午後5時

○本報告書の表記について

・原則として、数量、額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数で表記する場合があります。－印は、組入れ、異動などの該当がないことを示します。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			TOPIX(東証株価指数)		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
	(分配落)	税込み分配金	期騰落率	[参考指数]	期騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
14期(2014年9月22日)	10,268	1,500	13.5	1,330.88	9.2	97.5	－	2,960
15期(2015年9月24日)	10,066	700	4.9	1,426.97	7.2	93.7	－	3,243
16期(2016年9月20日)	9,949	0	△1.2	1,316.97	△7.7	96.5	－	3,359
17期(2017年9月20日)	10,220	3,600	38.9	1,667.92	26.6	95.6	－	2,629
18期(2018年9月20日)	10,525	560	8.5	1,787.60	7.2	93.9	－	4,135

(注) 基準価額および分配金は1万口当たりの値です。

(注) 基準価額の騰落率は分配金込みで計算しています。

(注) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

(注) 当ファンドでは運用目標とするベンチマークを設定していないため、参考指数としてTOPIX(東証株価指数)を掲載しています(以下同じです。)

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		TOPIX(東証株価指数)		株式組入比率	株式先物比率
	騰落率		[参考指数]	騰落率		
(期首) 2017年9月20日	円	%		%	%	%
	10,220	－	1,667.92	－	95.6	－
9月末	10,315	0.9	1,674.75	0.4	96.4	－
10月末	10,753	5.2	1,765.96	5.9	96.8	－
11月末	11,213	9.7	1,792.08	7.4	96.9	－
12月末	11,366	11.2	1,817.56	9.0	96.4	－
2018年1月末	11,656	14.1	1,836.71	10.1	96.9	－
2月末	11,451	12.0	1,768.24	6.0	96.9	－
3月末	11,414	11.7	1,716.30	2.9	96.2	－
4月末	11,420	11.7	1,777.23	6.6	97.1	－
5月末	11,410	11.6	1,747.45	4.8	96.3	－
6月末	11,434	11.9	1,730.89	3.8	97.6	－
7月末	11,138	9.0	1,753.29	5.1	97.0	－
8月末	10,930	6.9	1,735.35	4.0	97.4	－
(期末) 2018年9月20日						
	11,085	8.5	1,787.60	7.2	93.9	－

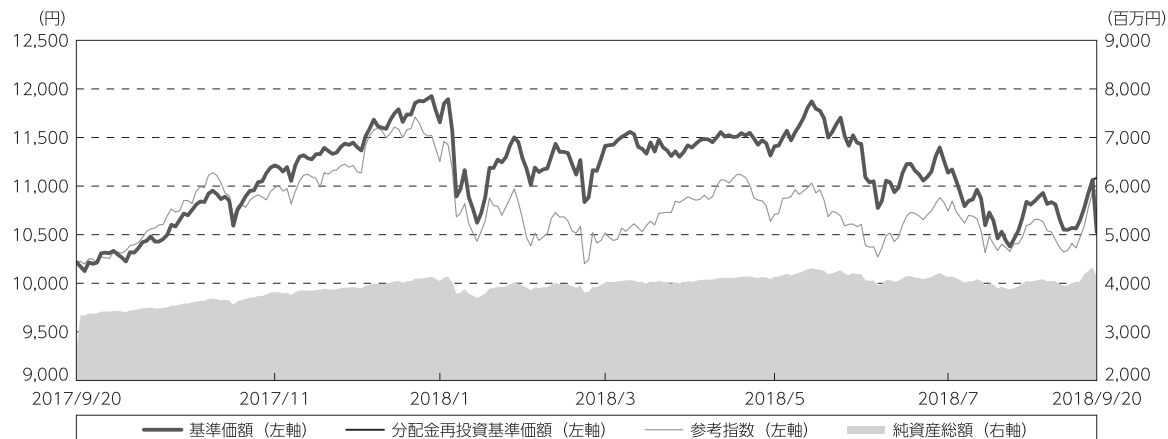
(注) 基準価額は1万口当たりの値です。

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比で計算しています。

(注) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

◎運用経過(2017年9月21日～2018年9月20日)

○当期中の基準価額等の推移



期首：10,220円

期末：10,525円 (既払分配金(税込み)：560円)

騰落率：8.5% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

○基準価額の主な変動要因

2017年10月から2018年1月にかけての上昇の主な要因は、衆議院選挙で与党が圧勝したことや世界景気の拡大に対する期待、国内企業の堅調な業績、米国税制改革の進展などが挙げられます。4月から5月にかけては、米国と北朝鮮の首脳会談開催合意による地政学的リスクが和らいだこと、円高進行の一服、国内企業の好決算などが基準価額の上昇要因となりました。

一方、2018年2月から3月にかけての下落の主な要因は、米国長期金利の急上昇と株式市場に与える影響への懸念、円高の進行、米国の鉄鋼・アルミ関税賦課や米中間の貿易摩擦が世界経済に与える影響への懸念などが挙げられます。

○投資環境

当期の株式市場は、2017年10月の衆議院選挙での与党の圧勝や好調な世界経済を背景に上昇して始まりまし。その後も堅調な国内企業業績の発表や米国税制改革の進展が好感され、2018年1月まで上昇が継続しました。しかし2月に入ると、米国景気拡大にともなう逼迫した雇用情勢を背景に米国長期金利が急上昇し、株式市場への影響が懸念され大幅に下落する展開となりました。さらに米国で鉄鋼・アルミに輸入関税が賦課されたことで景気の先行きに対する懸念が高まり、3月下旬まで下落が続きまし。

4月以降は米国と北朝鮮の首脳会談開催合意により地政学的リスクが和らいだことや、良好な米国経済統計、国内企業の好決算などを背景に上昇に転じまし。しかしその後はイタリアの政治不安、新興国通貨の下落、さらには米中間での制裁・報復関税の発表などが上値を抑える展開となりました。しかし8月に米国とメキシコで貿易協定が合意されたことや、9月に米国の対中追加関税が当初に比べて軽減されたことなどを受けて米中貿易摩擦に対する懸念が後退したことで上昇し期末を迎えまし。

○当ファンドのポートフォリオ

期初から2018年3月までの前半期では、株式市場が上昇する中、当ファンドでも業界の魅力度や競争優位性が高い好業績銘柄が牽引する形で基準価額が上昇しました。個別銘柄では、セリア、太陽ホールディングス、ニチハなどがマイナスに寄与しましたが、東祥、日本M&Aセンター、ミルボンなどがプラスに寄与しました。

後半期に入ってから株式市場が続伸する中、当ファンドでは好調な企業業績を裏付けとした保有銘柄の株価上昇があったものの、業績面で市場の期待に届かなかった一部の銘柄が売られたことなどにより、基準価額は概ね横ばいで推移しました。個別銘柄では、ニチハ、日精エー・エス・ビー機械、ヤフーなどがマイナスに寄与しましたが、ソラスト、東祥、アイカ工業などがプラスに寄与しました。

当ファンドでは高い投資成果を獲得するため、投資哲学に基づき持続的な企業価値の成長と割安度の改善に注目した投資行動に注力して参りました。そのため事業の魅力度が高く、業界において優れた競争力をもち、なおかつ優良なガバナンスによって、企業価値の持続的な成長が見込まれる価値の高い銘柄を安い株価で投資する一方で、株価が上昇し割高な水準に達した銘柄や、調査の結果、業界の魅力度や競争優位性が低下したため将来に向けて企業価値の拡大が難しくなると判断した銘柄を売却することで、ポートフォリオの魅力度を一層高めまし。

この結果、当期において新たにキーエンス、ソラスト、ニチハ、JCU、ジェイエイシーリクルートメント、KHネオケム、三和ホールディングス、乃村工藝社、ミロク情報サービスを組み入れまし。一方、ヤフー、アルプス技研、ミルボン、三菱鉛筆、ショーボンドホールディングス、東鉄工業、イーグル工業、パーク24、ダイセキ、ナガイレーベン、関西ペイント、ベルクについては保有株式をすべて売却しました。

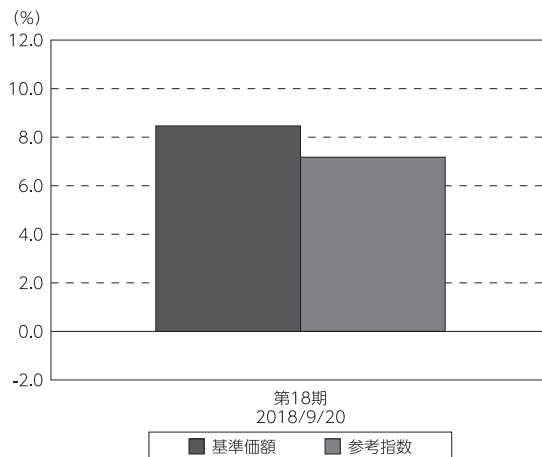
○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークはありません。

コメント・グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

参考指数が7.2%上昇したのに対し、基準価額は8.5%の上昇となり、参考指数を1.3%上回る結果となりました。当期の株式市場は堅調な企業業績を背景に上昇したものの、米中間の制裁・報復関税や新興国通貨の下落などによる不安定な局面もありました。そうした中、当ファンドでは、調査の結果、経営のクオリティが高く持続的な企業価値の成長性が高い企業への選別投資を行っていたことが、プラスの乖離要因になりました。

基準価額と参考指数の対比(期別騰落率)



(注) 基準価額の騰落率は分配金込み(税込み)です。

○分配金

当期の分配金につきましては、収益分配方針に基づき、基準価額水準などを勘案して、1万口当たり560円とさせていただきます。

なお、収益分配にあらず信託財産内に留保した利益につきましては、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第18期
	2017年9月21日～ 2018年9月20日
当期分配金	560
(対基準価額比率)	5.052%
当期の収益	560
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,090

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益および当期の収益以外は、小数点以下を切捨てて表示しているため、合計した額が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

当ファンドの運用の特色は、短期的な業績動向だけでなく、中長期的な視点に立った企業価値分析を行うことにあります。特に財務的要素に加えて、環境(E)、社会(S)、ガバナンス(G)といった非財務的要素を統合した分析を行うことで、その企業の本質的価値とそのサステナビリティを見極めていきます。そしてサステナビリティ評価の高い企業を厳選し、安い株価で集中度を高めて買い、企業価値の成熟と株価の上昇を狙う運用を行うことで、高い投資成果の獲得を狙います。また投資スタンスとして、企業価値の向上が中長期的な投資リターン拡大にとって最も重要な要素と考え、経済動向に関わらず経営改善によって持続的な企業価値の成長が見込まれる企業への厳選投資を徹底し、高い投資成果の獲得を狙います。

○1万口当たりの費用明細

(2017年9月21日～2018年9月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	215	1.922	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(133)	(1.188)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(73)	(0.648)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(10)	(0.086)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	12	0.104	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際に支払う手数料です。
（ 株 式 ）	(12)	(0.104)	
(c) そ の 他 費 用	1	0.006	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用です。
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	228	2.032	
期中の平均基準価額は、11,208円です。			

(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含みます。)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含みます。)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

○売買及び取引の状況

(2017年9月21日～2018年9月20日)

株式

国 内	上 場	買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
		千株	千円	千株	千円
		750	2,291,087	613	1,231,323
		(213)	()		

(注) 金額は受渡代金です。

(注) ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれていません。

○株式売買比率

(2017年9月21日～2018年9月20日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	3,522,410千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	3,821,906千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.92

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

○利害関係人との取引状況等

(2017年9月21日～2018年9月20日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2018年9月20日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
建設業 (-%)			
ショーボンドホールディングス	10.9	—	—
東鉄工業	17.9	—	—
化学 (14.0%)			
KHネオケム	—	25.6	107,264
アイカ工業	14	39.9	183,340
関西ペイント	6.8	—	—
太陽ホールディングス	18.9	24.7	106,827
ミルボン	13.1	—	—
J C U	—	56.1	145,803
医薬品 (1.7%)			
参天製薬	25.4	37.2	64,876
ガラス・土石製品 (3.6%)			
ニチハ	—	46	140,990
金属製品 (2.2%)			
三和ホールディングス	—	60.6	85,627
機械 (9.5%)			
日精エー・エス・ピー機械	9.5	14.3	69,426
ダイキン工業	5.3	7	106,435
アネスト岩田	100.2	128.7	148,905
イーグル工業	30.5	—	—
マキタ	5.6	7.9	42,818
電気機器 (15.3%)			
マブチモーター	8.4	20.6	88,168
オムロン	8.7	8.1	40,905
堀場製作所	7.1	11	69,520
キーエンス	—	2.7	170,964
日本セラミック	18.8	25.1	74,496
芝浦電子	21.8	29.8	151,086
輸送用機器 (2.1%)			
トヨタ自動車	9.4	11.6	80,956
その他製品 (-%)			
三菱鉛筆	25	—	—

銘柄	期首(前期末)	当 期 末		
	株 数	株 数	評 価 額	
	千株	千株	千円	
情報・通信業 (1.6%)				
ヤフー	183.1	—	—	
ミロク情報サービス	—	24.9	61,328	
卸売業 (2.1%)				
シップヘルスケアホールディングス	16.6	20	81,700	
ナガイレーベン	7.6	—	—	
小売業 (18.5%)				
セリア	19.9	25.7	103,828	
アークランドサービスホールディングス	43.9	54.8	112,778	
ブロンコビリー	27.5	37.3	129,990	
良品計画	3.8	5.4	184,410	
ニトリホールディングス	7.1	11	189,695	
ベルク	2.8	—	—	
不動産業 (-%)				
パーク24	11.6	—	—	
サービス業 (29.4%)				
ジェイエイシーリクルートメント	—	50.1	123,246	
日本M&Aセンター	24.3	43.2	137,808	
プレステージ・インターナショナル	73.3	110.2	147,447	
アルプス技研	24.5	—	—	
ユー・エス・エス	22.5	31.3	65,761	
ソラスト	—	128.2	173,839	
リログループ	38.1	58.4	187,756	
東祥	19.1	48.9	222,250	
乃村工藝社	—	36.5	83,074	
ダイセキ	8.7	—	—	
合 計	株 数・金 額	891	1,242	3,883,325
	銘柄数<比率>	36	33	<93.9%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率です。

(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率です。

○投資信託財産の構成

(2018年9月20日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 3,883,325	% 88.0
コール・ローン等、その他	530,538	12.0
投資信託財産総額	4,413,863	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2018年9月20日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資産	4,413,863,992 円
コール・ローン等	525,369,092
株式(評価額)	3,883,325,300
未収配当金	5,169,600
(B) 負債	278,289,320
未払金	16,586,793
未払収益分配金	220,044,793
未払解約金	2,044,624
未払信託報酬	39,500,700
未払利息	1,509
その他未払費用	110,901
(C) 純資産総額(A-B)	4,135,574,672
元本	3,929,371,321
次期繰越損益金	206,203,351
(D) 受益権総口数	3,929,371,321口
1万円当たり基準価額(C/D)	10,525円

(注) 期首元本額は2,572,417,941円、期中追加設定元本額は1,601,973,007円、期中一部解約元本額は245,019,627円です。

○損益の状況 (2017年9月21日～2018年9月20日)

項 目	当 期
(A) 配当等収益	52,440,319 円
受取配当金	52,582,418
受取利息	43
その他収益金	2,733
支払利息	△ 144,875
(B) 有価証券売買損益	289,870,347
売買益	601,014,103
売買損	△311,143,756
(C) 信託報酬等	△ 75,704,944
(D) 当期損益金(A+B+C)	266,605,722
(E) 前期繰越損益金	100,418,262
(F) 追加信託差損益金	59,224,160
(配当等相当額)	(281,649,199)
(売買損益相当額)	(△222,425,039)
(G) 計(D+E+F)	426,248,144
(H) 収益分配金	△220,044,793
次期繰越損益金(G+H)	206,203,351
追加信託差損益金	59,224,160
(配当等相当額)	(281,649,199)
(売買損益相当額)	(△222,425,039)
分配準備積立金	146,979,191

(注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 分配金の計算過程

計算期間末における費用控除後の配当等収益(40,842,322円)、費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(225,763,400円)、信託約款に規定する収益調整金(281,649,199円)および分配準備積立金(100,418,262円)より分配可能額は648,673,183円(10,000口当たり1,650円)であり、うち220,044,793円(10,000口当たり560円)を分配金額としています。

○分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金 (税込み)	560円
------------------	------

- ◇収益分配金のお支払いは、決算日から起算して5営業日までに開始します。
- ◇収益分配金を再投資する方のお手取り収益分配金は、決算日の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰入れて再投資しました。
- ◇課税上の取扱い
 - ・追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分)とがあります。
 - ・収益分配金落ち後の基準価額が、当該受益者の個別元本と同額または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。収益分配金落ち後の基準価額が、当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、当該収益分配金から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が普通分配金となります。
 - ・受益者が元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。
 - ・個人の受益者の普通分配金については、20.315%(所得税および復興特別所得税15.315%、地方税5%)の税率による源泉徴収が行われ、原則として確定申告の必要はありません。なお、確定申告を行い、総合課税(配当控除の適用はありません。)または申告分離課税を選択することもできます。
 - ・法人の受益者の場合は、税率が異なります。

※上記は、決算日現在のものですので、税法が改正された場合等には、上記の内容が変更される場合があります。
※税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

《寄付先報告》

・第18期寄付先のご紹介

目論見書記載のとおり、第18期(決算日2018年9月20日)は信託報酬の中から総額3,926,325円(日々の信託財産の純資産総額に年0.1%の率を乗じて得た金額)を、委託会社名で次の7団体に寄付いたしました。

(五十音順)

名 称	各 団 体 の 活 動 概 要
特定非営利活動法人 キッズドア すべての子どもたちが夢や希望を持てる 社会の実現を目指しています http://www.kidsdoor.net/	特定非営利活動法人キッズドアは、2007年の設立以来「日本の子どもの貧困」に取り組んでいます。生まれてきた環境や災害によって、子どもたちの将来の夢や希望に不平等が生じる社会はおかしい、貧困などの困難な環境にある子どもたちにも、フェアなチャンスのある社会システムを作りたいと思い活動を続けています。 いまの日本では、子どもの7人に1人(13.9%)が貧困です。親の収入が低いと、十分な教育が受けられず、進学・就職にも不利となり、その子どもたちもまた貧困の問題を抱えてしまいます。この「貧困の連鎖」を断ち切るために、私たちは無料の学習会を運営しています。さらに子どもたちが自由に過ごせる居場所を作り、食事を提供しながら学習支援も行っています。2017年は60拠点で居場所や学習会を運営し2,000名を超える子どもたちに通っていただきましたが、まだまだ足りません。いただいたご寄付は子どもたちの教育支援のために使わせていただきます。
社会福祉法人 子どもの虐待防止センター 子どもの虐待専門の民間相談機関 http://www.ccap.or.jp/	社会福祉法人子どもの虐待防止センターは、1991年に子どもたちを守るために親たちを支えたいと、専門家と一般市民がボランティアで参加をし、活動をスタートした民間の団体です。団体発足時から取り組む電話相談には、これまでに97,000件以上の相談が寄せられています。寄せられた母親たちの子育ての苦しさに耳を傾け、気持ちに寄り添い、共に悩み続けてきました。子育ての責任を一身に背負うあまり、辛さを抱え込み、「このままではいけない」「いい親にならなければ」という多くの声。怒鳴ったり叩いたりする子育ては、子どもだけでなく、追い詰められている親自身も傷つけています。1997年には活動の実績が認められ、社会福祉法人の認可を受けました。その後も要請に応じて、母親のグループや具体的な子どものかかわり方のヒントを学ぶペアレンティングプログラムの開発、子どもたちの心のケアに取り組む事業など、一つずつ活動を拡げています。
特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会 [愛称：聚(しゅう)] 自然とともに生きる社会づくりの推進 http://www.shu.or.jp/	1995年任意団体として設立。物質的・経済的な豊かさだけではない「豊かさ」を大切に「持続可能な社会」を目指し、「森を守る」「人を育てる」「森と人をつなぐ」の3つの活動を行っています。 ◆森を守る～フィールド事業 主に「里山」をモデルに雑木林、人工林の保全に加えて、身近な公園などでの活動も行っています。 ◆人を育てる～グリーンセイバー資格検定、他 自然や環境に対する正しい基礎知識を身に付けるためのグリーンセイバー資格検定を運営しています。合格者向けには実践活動のスキルアップを目的とした研修会やセミナー、OJTの場を提供し、環境に対する関心を高める活動が広く展開できるようなボトムアップを図っています。 ◆森と人をつなぐ～環境コミュニケーション事業、他 地域の方々や行政、企業などと連携し、保全活動や環境教育等の一般市民が参加できるような普及啓発活動を推進しています。特にCSR活動の受け入れや企画運営を行い、企業の環境活動を促進しています。
認定特定非営利活動法人 しんぐるまざあず・ふぉーらむ ママが元気になるれば子どももしあわせに！ シングルマザーが子どもといっしょに生き 生き楽しく生きられるように、ママを勇気 づけ、社会で活躍できる支援を行っています https://www.single-mama.com/	1980年に発足、2002年に特定非営利活動法人、2018年10月15日より認定特定非営利活動法人となった当事者中心の支援団体です。現在、1,600名を超えるひとり親が無料メルマガ会員となっています。 主な活動としては、グループ相談会、電話相談、同行支援などの個別支援、食料支援、企業と連携したキャリア支援プログラム「未来への扉」、小学校から大学・専門学校まで、進学するお子さんにお祝い金を贈る新入学お祝い金事業、ひとり親向けのエンパワメントセミナー、支援者向けのひとり親サポーター養成講座、「シングルマザー365日サポートブック」「教育費サポートブック」等の本の出版、ひとり親向け新聞「Smoms(エスマムズ)」の刊行、無料学習支援、野外活動やクリスマスなどの親子交流イベントも行っています。

名 称	各 団 体 の 活 動 概 要
特定非営利活動法人 東京シュール 子ども・若者が成長しやすい社会作りのためのフリースクール等の運営 https://www.shure.or.jp/	いじめ・不登校をはじめ、学校外に居場所や学び場を求める子どもたちのフリースクールを運営して34年目を迎え、1,600名を超える多くの子どもたちの成長を支えてまいりました。現在、東京都北区、新宿区、大田区、千葉県流山市の4カ所のスペースに6歳から23歳まで約170名が在籍、その他、家庭で過ごす子ども・家族をつなぐホームシュール200家庭、若者によるシュール大学約30名、学校法人による東京シュール葛飾中学校120名で活動を展開しています。私たちの原点は、わが子や不登校への理解を深め、学び支えあう“親の会”の活動です。子どもにとって多様な学び・育ちが必要と考え、学校外の子どもの居場所づくりからスタートし、「親立」、「市民立」、「市民立」の精神で、“子どもが創る・子どもと創る”を理念として子ども中心の教育を提案し続けています。
公益財団法人 プラン・インターナショナル・ジャパン 子どもの権利を推進し、貧困や差別のない社会の実現を目指す国際NGOです https://www.plan-international.jp/	プラン・インターナショナルは、国連に公認・登録された、宗教や政治には中立な立場の国際NGOです。子どもの権利を推進し、貧困や差別のない社会を実現するために活動しています。とくに、差別されたり、過酷な状況に追い込まれたりしがちな女の子や女性への支援に力を入れています。長期的な地域開発を行う一方で、自然災害や紛争などの緊急事態にも迅速に対処します。日本では1983年に活動を開始。公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンとして、国内の約6万人の支援者と、約650人のボランティアの方々を支えられています。プランは「誰一人取り残さない」という理念のもと、国際社会で進めている「持続可能な開発目標（SDGs）」の策定に準備段階から関わってきました。そしてアジア・アフリカ・中南米の活動国50カ国以上の地域に根ざした支援活動で培った専門性やネットワークを生かし、目標達成に取り組んでいます。
特定非営利活動法人 モンキーマジック 障害者クライミング普及活動を通じて、多様性を認め合えるユニバーサルな社会の実現を目指しています https://www.monkeymagic.or.jp/	「見えない壁だって、越えられる」をコンセプトに、国内で10年以上にわたり、視覚障害者向けクライミングスクールや障害の有無を問わず参加できる交流型クライミングイベントを開催しています。年間60回以上開催するスクール、イベントには幅広い年代から、障害者・健常者のべ1,000人以上が参加しております。クライミングは障害に関係なく、同じ場所で同じルールで楽しめる特性があり、健常者と障害者が「助ける・助けられる」の関係ではなく、同じクライミング仲間として関わり、互いに壁を取り払い、理解しあう価値ある機会となります。障害、年齢、性別、文化などの違いに関わりなく、それぞれの人が社会の一員として支え合う中で、安心して暮らし、一人ひとりが自分らしく生き、持てる力を発揮して元気に暮らすことのできる社会を目指しています。

注：上記の7団体は、第18期計算期間にかかる金額を寄付させていただいた団体であり、第19期計算期間以降については、上記の団体に寄付を行うとは限りません。

・第17期寄付先に関する活動報告

第17期(決算日2017年9月20日)は次の5団体に寄付を行いました。

寄付先団体からの活動報告は以下のとおりです。

(五十音順)

名 称	各 団 体 か ら の 報 告
社会福祉法人 子どもの虐待防止センター http://www.ccap.or.jp/	社会福祉法人子どもの虐待防止センターは、1991年から親へのサポート、子どもへのケア、支援にあたる専門職への研修機会の提供などを通じ、家庭内で起こる子どもの虐待を防止するための活動を行っています。第17期のご支援は、子どもたちの心のケアを行う「アタッチメント形成のための心理療法プログラム」に活用させていただき、子どもたちが抱える問題の改善に取り組みました。併せて、プログラムをテーマとした心理職対象研修を行い、全国の児童養護施設等に勤務する心理職の方が多数参加されました。この研修は、日本臨床心理士会の認定研修として認められ、より幅広い参加を受けて、各地でその知見が活用されています。2018年3月、5歳の少女の虐待死をきっかけに、今改めて虐待防止の対策に注目が集まっています。悲しい事件が繰り返されることのないよう社会全体で考えていくことが大切です。皆様のご支援に法人一同心より感謝を申し上げます。

名 称	各 団 体 か ら の 報 告
<p>特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会 [愛称：聚(しゅう)]</p> <p>http://www.shu.or.jp/</p>	<p>ご寄付につきましては、以下のように「人材育成」にかかわる事業に活用させていただきます。</p> <p>①グリーンセイバー検定事業と合格者の自主的な活動 合格者が、フィールドでの実践活動を通して自然とともに生きる社会づくりに貢献できる人材育成を基幹事業として推進してきました。一般に向けた自然体験や観察会等は、自然や環境への関心を育む普及啓発活動の一環で自主的に活動を企画しています。子ども向けに6回実施、参加者121名、大人の方を対象に、10回実施、参加者159名で実施してまいりました。また、里山保全活動に必要な基本的技術を習得する講習や学生を指導するプログラムも自主的に企画し実践しています。</p> <p>検定から実践活動、そして実社会への展開という流れができてきており、人材育成事業が社会で求められている活動への成果につながっています。</p> <p>②グリーンセイバー新制度の展開 グリーンセイバー検定事業の新しい制度の検討を進めてきました。2017年度は、グリーンセイバーの裾野が広がるよう、議論を積み重ね、一般向けのテキストの試行版の完成に至りました。さらに、企業や学校で使ってもらえるものにしようと引き続き制作を継続します。</p>
<p>特定非営利活動法人 東京シューレ</p> <p>https://www.shure.or.jp/</p>	<p>毎年20万人の子どもが不登校・中退し、9月1日ははじめ長期休み明けに子どもの自殺が突出する日本。この状況は、子どもや家庭の問題ではなく、教育制度・社会システムの問題と考え、私たちは新しい多様な教育のしくみづくりや政策提案を続け、ご寄付は一貫してこのチャレンジに活用させていただいています。</p> <p>重点の一つは、「フリースクールの公教育化・学校づくり」として、教育特区・公民連携によるフリースクールタイプの「東京シューレ葛飾中学校」を2008年度に開校、その後もフリースクールの高校、小学校の検討を続け、昨年度は自治体とともに検討するステージにきました。また私たちが中心となって立法を進めた「教育機会確保法」が昨年度から施行し、ご寄付を普及・情報発信、スタッフ研修・養成、公民連携のための調査や準備等に活用、北区では東京シューレからの提案事業の実施が決まりました。</p> <p>また、夏休み明け、子どもの自殺防止「いのちを守る3つの取り組み（子どもたちが作った動画メッセージ、駆け込み居場所の提供、相談電話）」の継続実施にも活用させていただきます。</p>
<p>認定特定非営利活動法人 日本NPOセンター 「東日本大震災現地NPO応援基金」</p> <p>http://www.jnpec.np.jp/</p>	<p>「東日本大震災現地NPO応援基金」は、震災によって被災した生活者を支援する現地NPOが、地域に根ざし、復興の担い手として継続的に活動できるように、団体の組織基盤を強化することを目的としています。</p> <p>当基金の特徴は、資金援助にとどまらず、現地訪問等を含めて現地NPOに寄り添い、迅速、臨機かつ柔軟な支援を行うことです。2011年4月～11月を「第1期：救援期」、2011年11月～2016年9月を「第2期：生活再建期」として、77件（1億8,784万円）の助成を実施しました。2016年10月からは「第3期」として、地域の未来をつくる持続的な組織になるための基盤強化の取り組みを応援しています。現在まで8件（2,261万円）を助成しました。</p> <p>復興が進むうち、震災以前からある地域課題が前面に出てくるようになりました。課題解決のためには、地域住民が活動の主体として参画することが大切です。これは、当基金が目指す、被災地の住民が主体となった復興を後押しするということでもあります。震災後7年半が経過し、震災の記憶や復興への思いが風化する中、長期にわたる復興支援を「あすのはな」第17期のご寄付を通して支えていただけたことに、心より感謝申し上げます。</p>
<p>公益財団法人 プラン・インターナショナル・ジャパン</p> <p>https://www.plan-international.jp/</p>	<p>2017年度のご寄付は、ベトナムにおける「幼稚園・小学校教育」プロジェクトに活用させていただきました。活動地域は、ベトナムの中でも特に困難を抱えている北部ライチャウ省と中部コントゥム省です。村の幼稚園や小学校の多くでは、電気やトイレがなく、校舎も劣化して雨風も防げない環境でした。ほとんどの子どもは少数民族で、学校では家庭の言語とは異なるベトナム語で授業が行われているため、授業についていけない子どもも多くいました。そのため、小学校で留年する子どもも多く、卒業しても十分に読み書き・計算ができない状況でした。</p> <p>そうした状況を改善するため、幼稚園や小学校の環境整備（教室建設とトイレ・給水設備の設置）、参加型授業やベトナム語を母語としない子どもたちへの教授法の教師トレーニング、読書推進トレーニングの実施に活用させていただきました。ハード、ソフト両面からのご支援により、子どもたちの教育環境は大きく改善しました。</p>